

平成 29 年度 錦江町地方創生推進委員会会議録

平成 30 年 3 月 19 日（月） 午後 13 時 30 分
錦江町役場 2 階会議室

| | |
|-----|--|
| 事務局 | <p>それでは、ただいまから平成 29 年度錦江町地方創生推進委員会を開催いたします。</p> <p>はじめに本部長である町長があいさついたします。</p> |
| 本部長 | <p>本日は年度末のお忙しい中、地方創生推進委員会にご出席を賜り誠にありがとうございます。</p> <p>本町の地方創生の取組みにつきましては、これまで順調に進んでおりまして、企業や大学との学術連携などが進んでおります。</p> <p>このような中ではありますけれども、地方創生のけん引役である吉田地方創生担当統括監が本年 1 月末をもって退任いたしました。そのようなことから今後この役割をどのようにして進めていくかを検討いたしまして、また未来づくりプロジェクトを変えることなく推し進め、希望あふれるまちづくりを引き続き進めていきたいと考えているところであります。そのために、本年 4 月から一部組織の改正を行いまして、総合戦略を主とする「未来づくり課」を新たに新設して、錦江町まち・ひと・『MIRAI』創生協議会事務局と同じ地域活性化センター神川に置くことで官民一体となったプロジェクトを進めてまいりたいと考えております。</p> <p>以上のような点から町民の皆さんに説明するため、就任直後の 1 月に町内 8 カ所で今後の地方創生についての町民講座を開催し、総合戦略を変えることなく今の方向性を引き続き推し進めていくことを町民の皆さんにご理解いただいたところです。</p> <p>これらの経緯並びに方針などを本委員会へも報告すべきではありましたが、昨年度末には委員の就任をいただきながらも開催が遅くなりましたこと誠に申し訳ありませんでした。</p> <p>本日は本委員会構成の決定のあと、平成 28 年度の効果検証、平成 29 年度の取組み、そして平成 30 年度事業計画について報告をさせていただきます。</p> <p>改めて本委員会の開催が遅れましたことを深くお詫び申し上げまして、合わせて本日のご審議のほどよろしくお願いいたします。</p> |
| 事務局 | <p>委嘱状につきましては、本部長のあいさつにもありましたが、今年度は年度末の開催となりましたことを重ねてお詫び申し上げます。また前回の任期から引き継ぐために委嘱年月日が平成 29 年 4 月 1 日となっております。任期が平成 31 年 3 月 31 日までとなりますことをご了承ください。また委嘱状の交付式は行わず、お手元の封筒に同封しておりますこともご了承ください。</p> <p>委員の皆様には平成 27 年 6 月 16 日にこの推進委員会の立上げからご尽力いただき、そして引き続き委員の承諾をいただいたところであります。残念</p> |

| | |
|------|--|
| | <p>ながら数名の方々からは辞退の申し出がありました。今年度は新たな募集も行なっていないので前回の委員から承諾をいただけなかった方々を除いた 18 名の委員で構成しております。そして本日は 13 名の出席をいただいておりますので、過半数の出席を超えておりこの委員会が成立することを報告いたします。名簿は手元にお配りしておりますので、委員の紹介は省略させていただきます。また本日は産業界の C 委員、行政機関の G 委員、言論の L 委員、O 委員から欠席届がありましたのでご報告いたします。</p> <p>それでは要綱でこの委員の中から委員会の委員長と副委員長を委員の互選により選出することとなっております。どなたか立候補もしくは推薦される方はいらっしゃいませんか？</p> <p>(執行部一任の声)</p> <p>執行部一任との声がありましたが、執行部の案をお示ししてもよろしいでしょうか？</p> <p>(異議なし)</p> <p>それでは今年度の委員長を A 委員、副委員長に B 委員を考えておりますがいかがでしょうか？</p> <p>(異議なし)</p> <p>異議なしの声がありましたので、委員長を A 委員、副委員長に B 委員で決定いたします。</p> <p>それでは委員長席へ移動していただき、委員長のあいさつをお願いいたします。</p> |
| A 委員 | <p>みなさん、こんにちは。</p> <p>大変天気の悪い中ご出席いただきありがとうございます。先ほど事務局の方からも説明がありました通り、前回の委員長であります先生が辞退されました。私は委員長が初めてであります。地方創生が町民、行政、議会そして各関係機関の皆様方が真剣に本町の未来づくりに取り組んでいかなければならないと思っております。12 月に新町長が誕生しまして、今回地方創生をさらに推進するため、新たに「未来づくり課」を新設すると言われ、官民一体となって取り組んでいこうという熱意を示されました。その中で錦江町は少子高齢化を今後生き残っていくために、いろんな形で皆様のご知恵をいただきながら進めていかなければならないと思っておりますので、委員長という大役であります。皆様方のご協力をいただき進めていきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは早速協議に入ります。総合戦略の効果検証について事務局の説明をお願いします。</p> |
| 事務局 | <p>総合戦略の効果検証について説明いたします。本日お配りしております錦江町総合戦略改訂版がございますが、皆様もご存じのとおりこの総合戦略に基づいて進めておりますが、今日の報告といたしまして平成 28 年度の実績</p> |

を報告いたします。

まず基本連略『プロジェクトを支える土台づくり』ではありますが、「2020年の人口、年少人口、生産年齢人口、未来志向性政策提言コンテストの提案数、志の高い取り組み報道数」の数値目標をそれぞれ設けております。平成28年の欄に掲載しておりますのが、実績となります。

まず推計人口は7,723人。年少人口は797人（0歳から14歳まで）。生産年齢人口3,539人（15歳から65歳まで）。また未来志向性政策提言コンテストの提案数は、未来創造想像コンテストを開催しており、その提案数をカウントしており92件の応募がありました。報道数はメディアに取り上げられた数をカウントしております。

次に『しごとづくり』です。「2020年の農業産出額、町内総生産、商業販売額、新規就農者数、研修受け入れ先農家数、新規法人設立数、新規雇用者数、納税者一人当たり課税所得についてそれぞれ数値目標を定めています。

平成28年の実績ですが、農業産出額90.4億円、町内総生産は最新のデータが平成26年の26,029百万円であります。商業販売額は5,962百万円、新規就農者数は4名、研修受け入れ農家数は1軒、新規法人設立は1件、新規雇用者数は0人、納税者一人当たり課税所得は2,326千円となっております。新規就農者4名、新規法人設立1件という数値を見ましても、総合戦略の目標に対して着々と進んでいるのではないかとみております。

次の『なかまづくり』です。2020年の社会増減を▲44人に抑えようと目標を立てておりますが、平成28年は▲54人でした。また施策効果で流入して来られた方は1名、また空き家バンクによる契約件数は1件でした。

次に『ひとづくり』です。育児世代の転入出増減はプラス2世帯、出生数は35人です。また第3子以上の出生率ですが、これは児童扶養手当の支給から数値をはじき出しましたが、31.71%です。そして多世代型同居世帯の増加数は▲31世帯となっております。

次に『新しい絆づくり』ですが、自発的地域づくり事業、地域内拠点施設数、小規模多機能拠点化はいずれも0件です。錦江町ファンクラブ登録会員数は平成29年度から取り組んでおりますので平成28年度は0人です。

引き続き加速化交付金について説明をいたします。A4の横の資料をご覧ください。この交付金は大隅半島の4市5町で取り組んでおります観光DMO事業分です。この交付金は事業費の100%を交付金として交付されるものであり、表のように4市5町のそれぞれの事業費が掲載しておりますのでご確認ください。この事業では入込客数と延べ宿泊者数についてKPIを設定しておりますが、どちらも実績値が目標に達していません。この推進委員会を開催前に、推進本部を開催してこの交付金の検証を行いました。その中で目標には達していないが「地方創生に相当程度効果があった（おおむね目標達成）との評価をいたしました。今日はこの推進委員会で評価をしていただきたいのですが、「A：本事業が総合戦略のKPI達成に有効であった」

| | |
|------|--|
| | か、「B：本事業が総合戦略のK P I 達成に有効でなかった」のどちらかの評価としていただきます。委員の皆様どちらの評価をされるかご判断をお願いします。 |
| 委員長 | 地方創生の取組みの結果を報告いただきましたが、これにつきまして委員の皆様のご意見ををお願いします。何かございませんか？ |
| Q 委員 | 交付金の実績値は4市5町全体の数字ですか？ |
| 事務局 | この数字は4市5町全体の数字です。今回は各町の数字は手元に準備しておりませんので全体の数字で判断していただきます。 |
| Q 委員 | 錦江町に対してどういう効果があったかを見るものではなくて、その全体でどうであったかという評価をすることになるのでしょうか？ |
| 事務局 | はい、そのとおりでございます。平成30年度に大隅観光DMOとして立ち上げる予定ですが、それに係る事業費となります。 |
| Q 委員 | 評価をどうやってやればいいのかわかりませんので詳しく教えてください。 |
| 事務局 | 説明不足で申し訳ありません。 4市5町で観光部門に力を入れていきたいと思いますということでこの交付金事業を進めてきております。大隅観光DMOを設立予定であり、これを立ち上げるためには自主財源として何をすればよいのか、観光客を増やすために何が必要なのか等の調査や滞在プログラムの造成等を企画立案したりしております。K P Iを定めることが必須となっており、毎年その効果検証も求められる交付金ですので、そのK P Iに向けてどのぐらい進捗があったか、もしくは効果があったかということの評価していただくこととなります。この事業は平成28年度で終了するのではなく、平成31年度まで引き続き交付金事業を継続していく予定ですので、次回は錦江町分のデータも揃えて比較できるようにいたします。 今回は推進本部会議を2月28日（水）に開催して、この交付金の事業効果を「B：地方創生に相当程度効果があった（おおむね目標達成）」としておりますが、この委員会では推進本部での事業効果を踏まえて評価していただくことになっております。外部評価として「A：本事業が総合戦略のK P I 達成に有効であった」か、「B：本事業が総合戦略のK P I 達成に有効でなかった」のどちらかの評価としていただきたいと思います。 |
| 委員長 | それでは加速化交付金の評価として有効であった、もしくは有効でなかったのどちらかに決定しなければなりませんがいかがでしょうか？これからの大隅半島4市5町が観光への取組みとして一生懸命頑張っております。まだ目標には達していませんが有効であったとの評価でよろしいですか？ |
| 委員全員 | 異議なし |
| 委員長 | では外部評価をA本事業が総合戦略のK P I 達成に有効であったといたします。 |

| | |
|------|--|
| 事務局 | <p>それでは平成 29 年度『MIRAI』づくりプロジェクト」の取組みについて説明いたします。</p> <p>(資料を説明)</p> |
| 委員長 | <p>今事務局から報告がありましたが、何か聞いてみたいことがありましたら遠慮なく申し出てください。M 委員</p> |
| M 委員 | <p>移住・定住について、相談総数が 115 名のうち本町への下見に来られたのは 3 組 8 名とのことですが、この中で定住をされた方はいらっしゃいますか？</p> |
| 事務局 | <p>残念ながら定住までは結びついてはおりません。</p> |
| M 委員 | <p>どのようなことが原因とかはわかりますか？</p> |
| 事務局 | <p>親子 3 名で来られた方を見てみますと、お父さんはここでもいいかなとの意見であったみたいですが、やはり奥様の意見が最終決定となるケースが多いようです。地域の雰囲気やご近所付き合いとかを考えた場合に、今の生活から切り替えて地方に移住するとなると、かなり思い切った決断になるかと思えます。ですので簡単には踏ん切りがつかずにもう一步を踏み出せないことが大きな要因であったとお聞きしております。</p> |
| M 委員 | <p>何歳ぐらいの方々でしたか？若い人であれば勤め先がないと移住・定住は難しいですね？</p> |
| 事務局 | <p>30 歳代の夫婦でした。お子様も 3 歳ぐらいです。知らない地域に入り込んでいくのはかなりの勇気が必要となります。また受け入れる側も今までとは考え方を変えていかないと移住・定住はうまくいきません。お互いが譲るところは譲っていかないと前には進んでいきません。解決策としては、今現在錦江町に移住された方々がすでにいらっしゃいます。この方々を窓口にして相談に乗ってもらい、移住してきてこんなことが困ったとか、これができるならいいのとかを具体的に示すことでハードルが下がっていくのではと考えております。</p> |
| M 委員 | <p>これからも引き続き実施されることと思しますので、ぜひ移住者が増えるように頑張ってください。</p> |
| 委員長 | <p>それでは次の協議に入ります。平成 30 年度事業計画について説明してください。</p> |
| 事務局 | <p>平成 30 年度錦江町『MIRAI』づくりプロジェクト事業計画の資料をご覧ください。</p> <p>(資料の説明)</p> |
| 委員長 | <p>事務局から 30 年度の計画、予算が説明されましたが委員の皆様からご質問がありますか？M 委員。</p> |
| M 委員 | <p>平成 30 年度の事業計画を説明していただきましたが、町長の冒頭あいさつにもありましたが、地方創生統括監が中心となってこのような事業を進め</p> |

| | |
|------|--|
| | <p>ていただいたと認識しているが、彼がいなくなった今、地方創生統括監に代わるような人の必要性はないのか、地方創生統括監がいなくても進めていけるのか、どう考えておりますか？</p> |
| 本部長 | <p>地方創生統括監は全国公募で来ていただいた、非常に実績のある方でした。彼がいなくなった後、そのまま不在でこの事業が推進できるかということですが、現段階で「間違いなく進められます」というのは言えませんが、今報告のあった平成 29 年度、平成 30 年度事業はほぼ見えてきているので、ある程度タネがまかれた状態であります。これをどうやって実らせていくのかは残されたメンバーと、新しく設置する「未来づくり課」が一緒になって事業推進していく予定です。当然困難な場面も出てくるかと思いますが、地方創生統括監については外部ではありますが、指導的な立場に立ってもらうことを確約してもらっておりますので、このような状況ではありますが一つでも成功事例を出していくことが大事であると思いますので、まずは今まで取り組んできた事業を推し進めていきます。</p> <p>地方創生統括監に代わるような実績のある方がもしいらっしゃれば、その時点でまた考えていくかもしれないが、今の時点では残されたメンバーと、新しく設置する「未来づくり課」が一緒になって引き続き推進していくことを基本として考えています。</p> |
| M 委員 | <p>リーダー的な人はいないがみんなが進めていくということですね。</p> |
| 本部長 | <p>リーダーは 4 月以降に未来づくり課長が事務局長を兼ねていきますので、当面は未来づくり課長がトップリーダーとして推進してもらいます。</p> |
| 委員長 | <p>地方創生統括監は非常に行動力もあり、発想力もあり、またすごい人脈も持っていらっしゃった方でした。全国公募した中で 2 年ないし 3 年で結果を出すという形で契約しておりました。地方創生の事業は最長 5 年ですから、5 年ぐらいは錦江町のために頑張ってもらいたいと思っておりましたが、なかなか思うようにいきませんでした。先ほど町長が言われたように、今後は外部からのアドバイザーという形でお願いがしてあり了承も得ております。またいろんな形でアドバイスをいただけるような体制ができるのではと思います。</p> <p>他にありませんか？ Q 委員</p> |
| Q 委員 | <p>地方創生統括監がいなくなって、少し時間がたって私が思うのは、「町民の人から声を上げてもらわないと地方創生は出来ないんですよ」とおっしゃってました。地方創生統括監がいなくなった今、町民がどのように声を上げていくのが一番大事になってくるのではないかと思うんですけど、何回も聞いて申し訳ないんですが、この事業計画はどうしてもすごく大まかで人によって取りようがたくさんあるような書き方になっているのはそのような意図があつてのこととは思いますが、具体的に何をやっていくのかはこれを見ただけでは全くわからないし、予算で数字が挙げてあるけど、このお金自体</p> |

| | |
|---------------|--|
| | <p>がどういう風に使われていくのかもわかりにくい。この資料の2頁に実施組織がありますが、以前この委員会で説明があったとは思いますが、地方創生推進本部は役場の方だけで構成されたものですか？</p> <p>何かこの事業に対して、それを決めてきたのは町民ではなくて行政の方がほとんどであったのではないかと思いますか？</p> |
| <p>政策企画課長</p> | <p>ありがとうございます。まずご質問の後ろの方からお答えします。これまでの総合戦略及び事業計画の決め方でございますが、策定時あるいは改訂時には、Q委員のおっしゃる通り役場の組織である推進本部が案を作り、この推進委員会でご承認していただく形で策定してまいりました。今日の議題で出しておりますとおり、現在は策定後であり改訂も致しましたので改訂の余地もありませんので当委員会で効果検証を主にやっていただくという位置づけでございます。</p> <p>プロジェクトの計画でございますが、錦江町・まち・ひと・『MIRAI』創生協議会で承認されたものでございまして、当然推進本部の方も承認しているものであります。書き方について抽象的でどのような事業をするのかわからないとのことですが、一部ではきっちり「株式会社〇〇」と連携してこの事業をするというような書き方はしておりません。連携先についても途中の連携事業についても年度途中で変わることもありますので、そういったきっちりした具体性には欠けるかもしれませんが、3頁の施策概要に「土台づくり」で書いておりますが、具体的施策で読み取っていただきたいのが「町民に身近なテーマに関する説明会重点強化」とか4頁の未来創造想像コンテストの開催、「未来づくり委員会」これはいままで百人委員会とっておりまして、住民の皆さんに参加していただく委員会を、今年は階層別に試験開催していこうと計画しています。昨年度はふるさと納税の使い道をテーマ別で募集しましたが、今度は若い世代、あるいは子育て世代といった階層別で開催したいと考えております。</p> <p>課題解消を目的とした町民提案型の研修支援強化は、未来づくりプロジェクトは子供たちのため、将来を担う若者のために、町内の課題解決を一緒に解決しようといってくださいる町外の方たちと積極的に連携することで課題解消していこうとするのも大きな柱となっております。その課題はなんなのかということで、役場とかが設定するのではなくて、町民の皆さん方が課題を提案していただくというようなところがあります。時間の関係ですべてを説明することはできませんが、全く抽象的な話ではなくて、ある程度地域のやり方というのを想定して提案しているところです。昨年度もやってきましたが、事業を進めるにあたってあるいは事業の進捗途中、町民の皆さんに提案していただきたい等は広報誌、ホームページを利用して今後もさらに発信していこうと考えておりますので、町民の皆さんには経過報告を充実させていこうと思っております。</p> |

| | |
|--------|---|
| 委員長 | 政策企画課長、もしよければ予算も詳しく説明してもらえますか？支出はいいので収入はどこからとかお願いできますか。 |
| 政策企画課長 | 9頁の予算書につきましては、錦江町・まち・ひと・『MIRAI』創生協議会の運営に係る町からの助成金の収支になっています。つまり支出合計の52,091,760円は町の予算として確保してあります。この使い道は管理費として人件費等に33,114,000円。あと未来づくりプロジェクトに18,977,760円としております。受託事業としてふるさと納税一括受託やサテライトオフィス策定事業としており、29年度30年度いずれも0となっておりますがサテライト事業は29年度の決算には数字を入れておりますが、30年度は計上しておりません。ふるさと納税一括受託は協議会が寄附額の15%を手数料として収入しております。協議会自体の理事会には数字を入れておりましたが、今回数字が確定しておりませんので記入しておりません。 |
| Q 委員 | <p>この推進本部と創生協議会と未来づくり委員会が提言で結ばれているんですが、ここで提言があがった後に本部の方で審査があつて事業が決まって推進委員会と町議会の特別委員会で審議があつて議決となるんですか？</p> <p>もし自分が何かを提言したときに、そこにこの本部の方がいらっしやらない場合は本部の方が予算的にどうだよねとか、これは今できないんだよねとか、提言者と意見が交わされない場合どうしても何でなのだろうと二度手間がそこにあるのではと思う。時間のロスと直接やり取りができない不満が出てくるんじゃないかなという気持ちがあつて、町民と一緒にやっていたらお互いいろんなことがわかるんじゃないかなと思う。町民から行政の人を見たときにどうしてもわからないことが多いというか、行政も組織なので大きな組織を相手に提言を行っているような感じで、でも行政の方も錦江町の一町民であつてこれからの町の未来は一緒であると思うので、できればそういう場所で何かが決まってそれを委員会とか議会を通してを一回短くした方がスピード感が増すのと、その会に錦江町にいろんな協議会が存在すると思うんですけど、その会長さんたちにも一緒に参加していただいて意見を持っているもっていないじゃなくてどういうことが議論されているかを身近に感じてもらうのが一番手っ取り早いのではないかなと思う。広報誌とかは興味のある人しか見てくれないという部分があるのではないかなというのがあつて、興味がない人を呼び込んでいかなければならないその手段というのに半強制的にその会長さんたちを引き込んで、各会におろしてもらえば広がるのではと思う。</p> <p>二つ言いましたけれども、整理するとステップを少なくすると、広げるために広報誌以外に今存在している各会を使うというのがどうなのかなと思つてます。ここは検討する会だと思つているんですので私はこう考えてきました。</p> |
| 政策企画課長 | 貴重なご提案ありがとうございます。Q委員のおっしゃつたとおりどのように町民の皆さんの意見を反映していくかが非常に重要なところであります |

| | |
|------|--|
| | <p>ので、十分に反映されるような仕組み、やり方を考えております。一方関係者皆さんに全員集まっていただくとなると、Q 委員のおっしゃったとおり回数の手間は減るかもしれませんが、規模の関係で非常に意見の集約がしづらくなったりとかメリットの一方でデメリットもございます。そのような形でたとえば昨年、一昨年行いましたコンテストの開催を早くして、そのようなところから集約したり、何より今日ご報告が漏れてしまいました、錦江町まち・ひと・『MIRAI』創生協議会の理事体制が変わりまして、公募の町民さんだけで4月からスタートする予定になっております。そういった少しずつではありますが、町民の皆さんの声が反映される部分を今後も工夫しながらやっていきたいと考えております。ただし総合戦略の理念自体は町の総意でありますので変えることはありませんが、そこを達成するための手段としては「このようにやっていった方がいいのでは」との意見があればぜひ賜るべきであると考えておりますので今後も工夫を続けていきたいと考えております。総合戦略、未来づくりに関わらず、町の政策についても同様かと考えますので、ご質問ご意見の後段については総務課長にお願いします。</p> |
| 総務課長 | <p>Q 委員のおっしゃるとおり、やはり住民から見た行政組織、まちづくりは誰が主体なのかというところの肝の部分かと思えます。いろんな組織を経由しながら政策が決まっていくという従来型ではなくて、今後錦江町が未来に向けてどういう風に情報共有を図って反映させていくかとの質問だと思いますので、例えば今年1月から町長と政策企画課長が、「まちづくり町民講座」として各公民館を回りましたけれども、そういったところで具体的な施策を説明してそれに対してご意見をいただくとか、また今年の4月から地方創生の一つの情報共有の将来に向けた理念ですが、町が使う70億円という予算を使わせていただきますが、これがどういう風に使われていくのか本当に我々が地方創生の中で「未来の子供のために」とはいうものの使い道がどうなのかと住民にもっとわかりやすく、子供たちの読み物になるようなものを5月末には発行する予定です。そういうような一つ一つの手段を使いながらもっと住民との壁を無くしていきたいし、先ほども言いました「町民講座」や教育委員会の出前講座がありますが、なかなか町民に知れ渡っていないので今週末に教育委員会に示させます。もっと「地方創生のこの部分を」とか「教育のこの部分を」とかそのようなものに対して町民が知りたい、一緒に考えたいとかのご要望があれば出向いていく体制をとるように準備をさせておりますので、そういった形で進めてまいりたいと思っております。</p> |
| Q 委員 | <p>ありがとうございました。楽しみにしております。</p> |
| 委員長 | <p>他にないでしょうか？ 他にいらっしゃらないようですので平成30年度事業計画については以上といたします。 その他で何かございませんか？ H 委員何か高校のことでお聞きしたいこととかありませんか？</p> |

| | |
|------|---|
| H 委員 | <p>今回、どういう活動をしているかということで、南大隅高校の商業科は 4 つのコースに分かれまして、そのうちの一つに地域貢献コースというのがあります。どうしても高校の所在が南大隅町になりますので、南大隅町との連携というのはこれまでも日常のいろんな日常の行事に積極的に参加させていただいておりますが、それに比べますと錦江町とのかかわりというのがどうしても薄くなりつつあります。広報誌等についても所在が違うので錦江町の情報というのが高校に伝わってこないし、今お話ししていただいた資料というのも南大隅高校にはほとんど送ってこない状況であります。ですからそのような情報をいただいて、商業科という特別な学科でもありますので地域との連携というのは非常に重要な柱でもあります。ただ授業を通しての活動となりますから、こちらの期待に沿って十分対応できるかどうかは厳しいところはありますが、ぜひ高校生意見を活用する場面があれば活用していただければと考えております。</p> |
| 委員長 | <p>ありがとうございます。 他にございませんか？ 他にないようですので以上をもちまして協議事項すべてを終了いたします。</p> |
| 事務局 | <p>ありがとうございます。 それでは以上をもちまして平成 29 年度錦江町地方創生推進委員会を終了いたします。</p> |
| | |